# 非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

第87号　　2023年12月5日発行

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 1 階 A 室
スペース御茶ノ水気付 非暴力平和隊・日本

Tel：080-2678-5973 E-mail：office@np-japan.org
Website：http://np-japan.org/

## Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

・【巻頭言】
ーいま、ジーン・シャープを読むー　共同代表　君島　東彦　２

・ジーン・シャープを読んで　川本　梨央　９

・「選挙で政治を変える」　横山　富美子　１０

・NP2022 年度　年次報告より　大橋　祐治　１２

・ダルフールに関する NP 緊急声明　大畑　豊　１５

・カンパお礼　１６

2018 年以来、NP はミャンマーにおいて何百人もの女性や若者のリーダーを支援し、地域の重要な問題に対応し、他の地域のリーダーとつないできました。また 2021 年に軍が政府を打倒して以来、人道支援を促進するために地元のパートナーを支援し続けてきました。

# いまジーン・シャープを読む
## ――アメリカの非暴力の伝統の復権――

君島 東彦
非暴力平和隊・日本（**NPJ**）共同代表

【本稿は 2023 年 4 月 1 日 NPJ カフェでのトークに加筆したものです】

**NHK「100 分 de 名著」を深める**

NHK・E テレの番組「100 分 de 名著」は、今年１月、ジーン・シャープの『独裁体制から民主主義へ』という本を取り上げました。これは快挙だと思います。非暴力平和隊・日本としては、せっかく NHK が取り上げてくれたのですから、それを受けとめて深めたいと思い、今回ジーン・シャープについて考えることにしました。

ジーン・シャープとは誰かというとアメリカの政治学者です。これはある講義のためにわたしがつくったパワーポイントですが、ここに挙がっているのは 20 世紀の重要な非暴力の理論家・実践者たちです（３ページの顔写真を参照）。 ガンディーを除いて全員アメリカ人です。ジェイン・アダムズ、それからガンディー、リチャード・グレッグ、ドロシー・デイ、マーティン・ルーサー・キング Jr、そしてジーン・シャープ。20 世紀の世界の非暴力の理論家・実践家で、誰が重要かと考えてできたのがこれですが、その結果、偶然ガンディー以外全員アメリカ人なんです。今のわたしたちはアメリカは軍事大国であると認識しています。いったいアメリカに平和の思想とか非暴力の思想とかあるんだろうかと思います。しかし、アメリカには植民地時代以来、非暴力とか平和の強い伝統があります。その伝統を思い起こす必要があるとわたしは思います（実は北米の先住民の民主主義思想・平和思想も重要ですが、きょうはそれに触れる余裕がありません）。

ウクライナにしても東アジアにしても、平和をつくりだすためには、アメリカの政治権力・軍事力をどうコントロールするかがもっとも重要です。そしてアメリカの政治権力・軍事力をコントロールするためにわたしたちはアメリカの平和運動と連携することが決定的に重要です。非暴力平和隊というのはアメリカの平和運動との連帯なのです。非暴力平和隊はアメリカ人が言い出したのです。アメリカには非暴力を主張する知的な伝統があり、その一番新しいところにジーン・シャープがいます。

今日はジーン・シャープに関連して３つのことを言いたいと思います。

第一に、ジーン・シャープというのはアメリカの平和運動のあるいは非暴力の輝かしい知的伝統の一番新しい人。その背景にはこういう人たちがいるんです。わたしたちはアメリカの平和思想家、非暴力の理論家、運動家をどれくらい知っているでしょうか。キング牧師は知っています。ほかの人たちはあまり知られていません。キング牧師は明らかにガンディーの影響を受けていますが､同時にこの写真の左から３人目、リチャード・グレッグという人、この人は労働法の弁護士ですが、彼はガンディーとほぼ同時代の人で、ガンディーと交流がありました。グレッグがいて、キングがいて、というのがアメリカの思想です。このへんの伝統というのはすごく重要で、このうちの何人かはノーベル平和賞を受賞しています。ジェイン・アダムスとキング Jr. はノーベル平和賞受賞者です。ドロシー・デイという人はカトリックの平和運動の大事な人です。ジーン・シャープは詳しく話をしていくときりがないので、詳しく知りたい人は「100 分 de 名著」の番組でコメントしていた中見真理さんの書かれた NHK のテキストを読んでください。とても中身が詰まっています。

**政府への非協力・不支持という方法**

ジーン・シャープについて言いたい 2 つ目は、ジーン・シャープは良心的兵役拒否者だったということです。彼は 1928 年生まれで 2018 年に亡くなっています。彼は朝鮮

戦争のときの良心的兵役拒否者です。アメリカにはずっと、1972 年くらいまでだと思いますが、徴兵制があって徴兵される。ジーン・シャープは朝鮮戦争のときに徴兵拒否、良心的兵役拒否をしている。アメリカの平和運動の人たちは兵役拒否の人が多いです。非暴力平和隊をつくったデイヴィッド・ハートソー、メル・ダンカンも、彼らはベトナム戦争のときの兵役拒否者です。さらにいうとノルウェーのガルトゥングは第二次大戦のときの兵役拒否者。みんな刑務所に行っています。彼らの活動は兵役拒否から始まっているわけで、非暴力の原点はある意味では戦争に協力しない、ということですから、徴兵されても行かない、というのが非暴力の最初の実践です。しかし、それでいいのか、というのが次のテーマです。私の言葉でいうと、「しない平和主義」だけでいいのか。「する平和主義」が必要ではないかということです。そこで、「兵役拒否から非暴力平和隊へ」ということになります。

ジーン・シャープはいろいろな大学で研究をして、オックスフォード大学で博士号を取りましたが、大学に定職を得たことはありませんでした。自分でアインシュタイン研究所という小さな研究所をつくってそこを拠点に研究を続けました。オックスフォード大学に提出した博士論文を単行本にしたものがこれです。The Politics of Nonviolent Action、非暴力行動の政治学とでもいうのでしょうか。1968 年か 69 年にオックスフォードに出した博士論文で、73 年に３巻本として出版されました。これは古典です。世界中の平和研究者がみんな持っているんですが、みんなちゃんと読んでいない。私の本棚にもありますが、ちゃんと読んでいません。これは 1960 年末から 70 年代初めにかけて、非暴力行動を最も体系的にとらえた研究で、「非暴力行動 198 の方法」というのが出てきます。ジーン・シャープの本を読むと必ず出てくる。彼のオックスフォードの博士論文のときから「198 の方法」でそれ以降変化していない。その後進歩しなかったわけではなくて、彼の理論はその時点で体系的になった、まとまったということだと思います。いろいろな非暴力行動の方法が出てくるのです。ぜひ本棚から取り出してきて読みましょう。日本語訳はまだ出ていません。

日本では、ヨハン・ガルトゥングというノルウェーの平和学者がよく読まれていて翻訳もたくさん出ているのに比べると、ジーン・シャープの本はガルトゥングのように読まれていないし翻訳も出ていない。非暴力平和隊・日本の理事だった平和学者の岡本三夫さんとその妻の岡本珠代さんという岡本夫妻がいて、２人は若いころからジーン・シャープを知っていて本も持っていましたが、翻訳するには至らなかった。岡本珠代さんは１つ論文を訳されています。『軍事民論』という軍事問題研究、リベラ

ルな側からの、平和主義の側から軍事研究している『軍事民論』という雑誌がありましたが、そこに翻訳が載っています。だから比較的早い時期からジーン・シャープの名前は専門家の間では知られていたけれども、いま１つ共有されて来なかった。それはそれなりに理由があると思いますが、それは最後に触れます。

**「政治的柔術」とは何だろう？**

ジーン・シャープが使った言葉に「政治的柔術」という言葉があります。さらにさかのぼると、リチャード・グレッグという先ほどわたしが触れたアメリカの労働法弁護士ですが、彼が「道徳的柔術」という言い方をしています。彼らは柔術と言うんです。日本人は柔道に詳しいのに、「道徳的柔術」「政治的柔術」という彼らの概念、考え方を深めた日本人はまだ１人もいないと思います。それは日本人が深めるべきだと思います。どういう意味なのか。わたしがイメージするのは次のようなことです。つまり、ものすごいパワーで、ものすごい暴力で権力が抑圧してくるときに、それをこちら側が暴力で返すのはなく、それをうっちゃるということではないでしょうか。柔道の醍醐味というのは大きい人を小さい人が投げ返すところにあるわけです。巨大な権力に対して、どう対抗するかというときに、暴力で対抗するのではなくて、相手の力を違う方向に転換させるような応答をするところが、ジーン・シャープのいう「政治的柔術」ではないかと思います。

**政治権力をどう見るか**

ジーン・シャープの理論の１つのポイントは政治権力をどう見るか、ということです。ジーン・シャープの政治権力観は古いです。今となっては古い。フーコー以前の政治権力観ですね。権力というのは政府だけにあるのではなく、社会のあらゆるところにあって、権力関係というのは政府との関係だけではなくて、いたるところにあるというのがフーコー以降の権力観です。それからみるとジーン・シャープの権力観は古い。政府の権力だけを問題にしていますから。

シャープの権力論は次のようなものです。政府が支配できるのは、それは民衆が従っているからだ、民衆の支持が自発的か、いやいやかは別として、支持する限り政府は政府たりうる。政治権力は、民衆が認めているから、抵抗しないから政府たりうる。そこで民衆が認めなくなったら終わりなのです。人々が従っているから政府は政府なのです。そこには自発的服従もあるし、いやいやの服従もある、いろいろあるでしょうけれども、民衆が支持することをやめたとたん、政府は崩壊する。

ジーン・シャープの理論の核心はそこです。政治権力というのは、人々が、市民が、民衆が支持しているから政治権力は政治権

力たりうる。わたしたちはその支持を撤回すればいい。撤回したときに政府は崩壊する、という考え方。権力論としては古いが、依然として有効な議論ではあるでしょう。そこから非協力という方法の有効性が出てくるわけです。だから民衆は政治権力に協力しない、政府を認めないことによってその政治権力は終わる。それが彼の非暴力行動の１つの核心の部分です。非暴力、非協力という方法の有効性です。

**主体的市民が日々つくる平和**

ジーン・シャープを見るときの 3 つ目のポイントは、日本ではなぜジーン・シャープは人気がないか、ということです。日本では平和とは現状維持と受け取られかねないところがあります。日本では現状の不正に挑戦し、不正をただしていくというような、主体的な闘いとしての平和という観点が弱いとわたしは思っています。平和というのはそこにあるものではなくて、わたしたちが日々つくっていくものです。日々闘い取っていかなければ平和にならない。だから放っておいたら戦争状態になります。自然状態というのは平和状態か戦争状態か、という議論がありますが、わたしはどちらかというと自然状態は戦争状態であると思います。だからわたしたちが日々努力してつくっていかないと、いつでも戦争状態になり、戦争がなくならない。平和がそこにあるわけではない。わたしたちがつくらなければ平和はないのです。自然状態はむしろ戦争状態なのです、平和は守るものではなくてつくるもの。平和を守るっていうのは、それはおかしいんです。現状維持と平和は違いますから。現状というのは油断したらいつでも戦争状態、闘争状態になっていく。だから主体的にわたしたちが平和をつくる努力をやめたとたんに平和はなくなる。それは日々の努力にかかっている。だから平和を守るっていうのはわたしの感覚とは違う。平和は日々つくる。365 日毎日つくらないと平和にならないと思います。シャープの方法は、市民の側が主体的に闘いとる方法、権力者への支持を撤回していくような方法だから、ある意味、戦闘的なわけです。主体的に政府を認めるか、不正な政府を打倒していくか、と考えていくので。だから現状維持のような、受け身の考え方とは違います。

ジーン・シャープが言っていることは、結局、民主主義の強さの問題になってくると思います。どれだけ強い主体的な市民がいて、どれだけ強い闘いを続けるか。闘いの方法は非暴力・非協力です。不正な政府は認めない。きわめて主体的な市民がいなければ、支配されて終わり、ということになる。で、独裁になるわけです。その独裁ではなく民主主義をどうするのか。そこに知恵のあるアクティブな主体的な市民がいるかどうかにかかってくる。日本ではどうでしょうか。ジーン・シャープからすると、平和とは主体的な市民が日々闘い取るもの

だということになります。あるいは不正な政府に対して不支持・非協力の行動をとることが求められます。もしジーン・シャープが日本で人気がないとしたら、シャープの平和観と日本人の平和観との間にズレがあるからかもしれません。

**ジーン・シャープと**
**アメリカ政府との関係**

ジーン・シャープについて１つ注釈を加えないといけないのは、ジーン・シャープは CIA の協力者だと非難されることがあるのをどう見たらよいか、ということです。デイヴィッド・ハートソーとかメル・ダンカンとか非暴力平和隊をつくった人たちに言わせると、それはない、ジーン・シャープは自立している、決してアメリカ政府の手先ではない、まともな自立した平和思想の持主で、平和活動家だ、と彼らは言います。ジーン・シャープを貶めたい人たちはいるので、その人たちはシャープと CIA は協力関係にあるのでは、という話になってくる。わたしとしてはこの件については留保しておきます。もう少しはっきりさせないといけないという気がします。アメリカの知的伝統のなかにある１つの非暴力、民主主義の考え方の重要な理論家であるということは間違いないとわたしは思っています。わたし自身まだまだ勉強が足りないんですが、これからもっとジーン・シャープのことを勉強したいと思っている次第です。

**シャープの市民的防衛について**
**どう考えるか**

他国の軍隊に攻められたときに、軍隊による防衛ではなくて、市民による非暴力防衛で対抗すべきであるという考え方があります。ジーン・シャープは市民的防衛という言い方をしています。『市民力による防衛』というタイトルで翻訳本も出ています（法政大学出版局）。冷戦時代に『非武装国民抵抗の思想』（岩波新書）という本を宮田光雄さんという政治思想史を専門とする東北大学教授が書かれています。彼は憲法 9 条からすると日本の防衛は非暴力抵抗になるだろう、ということを深く考察しています。この考えはなかなか共有されていないと思います。日本の防衛をどう考えるかについては、国際政治学の安全保障とか、防衛の専門家の人たちが軍事的意味での、自衛隊による防衛という話はしてきたけれども、9 条を支持する側が日本の防衛をどう考えるか、ということについて本格的に議論してこなかったし、対応してこなかったと思います。

攻められたらどうするかということを問うこと自体がよくない、として答えてこなかった面があります。それは論点から逃げているわけで、ウクライナ戦争以降、いよいよこの論点から逃げることができなくなったと思います。日本政府とか軍事専門家からすれば、それはまさに自衛隊と米軍の問題になるわけです。軍事力に依存しない

で平和をつくろうとする側はどう考えたらいいのかという問いがつきつけられています。

**憲法前文の安全保障構想**
**――東アジアの包括的安全保障の枠組みをつくる**

わたしは、日本の安全保障は非暴力防衛、市民的防衛だけですむとは思っていなくて、日本国憲法前文第２段落に示されている日本の安全保障構想について熟考する必要があると思っています。9 条は日本軍国主義からの、連合国および東アジアの人々の安全保障の話です。もともと 9 条は日本の防衛の話ではないのです。日本の防衛の話は前文に書いてあるわけで、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼してわれらの安全と生存を保持しようと決意した」という文章がある。そこです。そこはもともとの意味は国連による安全保障を指しているのですが、国連安保理は冷戦で機能しなくなったので、国連による安全保障は期待できなくなった。日本政府は日米安保に行った。日本国憲法の原点を支持する側はどうするのか、問われています。わたしはずっと言っていますが、東アジアにおける包括的な安全保障の枠組みをつくらなくてはいけないということです。それは一貫して課題だと思う。いまだに課題だと思う。これに対する取り組みが弱いと思います。

軍事力に依存しない平和を考える側の構想力、準備、行動力が全然足りないと思います。東アジアにおける包括的な安全保障の枠組み――どこかの国を敵視する軍事同盟ではなくて――そういう安全保障の枠組みをつくらなくてはいけない。それは大変なことで、それをつくるにはたぶん 100 年くらいはかかるでしょうが、われわれはその努力をし続けなくてはいけない。わたし自身はそう思って毎日行動しています。

非暴力防衛の考え方はわかりますが、それこそ日本の民主主義――市民の主体性・行動力――が問われる。われわれの安全保障、というかこの地域の安全保障をどう考えるのか、東アジアの平和と安全をどう考えるのか、という問いの一部です。非暴力防衛の考え方は１つの重要な考え方だと思います。

## ジーン・シャープを読んで

川本梨央（ NPJ インターン ／
立命館大学３年 ）

私は、恥ずかしながら今回の NPJ カフェで初めてジーン・シャープという人物を知りました。彼の考えで特に面白いと感じた点は２つあります。

１つは、普通の人が変化を起こすという点です。これまで人々を動かし、変化を起こすにはカリスマ性やリーダーシップが必要であると考えていたため、普通の人が変化を起こすという彼の考えにとても驚きました。それと同時に、人々の大きな可能性を感じました。また、普通の人が変化を起こすという考えからコミュニティ・オーガナイジングを思い出しました。コミュニティ・オーガナイジングとは、社会的アクションを体系的にしたものです。コミュニティ・オーガナイジングについては、鎌田華乃子さん著書の『コミュニティ・オーガナイジング－ほしい未来をみんなで創る５つのステップ－』(英治出版、2020）で紹介されています。

コミュニティ・オーガナイジングとは、マーシャル・ガンツ博士によって提唱された社会的アクションの方法論です。そこでは、いかにして人々の間に繋がりをつくり、リーダーシップを育てるか５つの段階に分けて紹介しています。５つの段階とは、パブリック・ナラティブ、関係構築、チーム構築、戦略作り、アクションです。このように、どのように人々を組織し大きな力を生み出すか体系化しているという点で、平和活動においても活用できるのではないかと思いました。また、コミュニティ・オーガナイジングでは、カリスマ的なリーダーは必要ないとし、１人１人が各自の活動範囲でリーダーを発揮できる組織を理想としています。

そのように、普通の人たちが協力して、自分たちでほしい未来をつくっていくという点がシャープの考えと共通しているのではないかと考えました。まず変化を起こすためには、ほしい未来を思い描くことが必要です。しかし、君島さんが指摘するように、私たち若者にとって平和はそこにあるものであり、「つくるもの」という認識が薄いです。そのため、共通認識となるようなほしい未来を思い描くことから始めなくてはならないのではないかと考えました。

もう１つは、非暴力ということは決して受動的なものではなく、武器にもなり得るという点です。シャープは、社会的な集団を構築することが重要であると示していました。社会的集団が高齢化する日本社会において、NPJ カフェなどの発信を通じてより多くの人が平和について考え、活動の入り口へとなることを願います。

## 「選挙で政治を変える」

会員・９条を輸出する会　横山富美子

私たちは今、改憲（自衛隊を国防軍として明記）か、それとも護憲（9 条②項を遵守）か、歴史の大きな分岐点に立っています。前者は現政権が進めている道であり、後者は憲法の通りに非武装の国にする道です。日本が非武装中立の国になることは、世界すべての国々と平和の条約を結ぶことであり、特に東アジアの戦争を止める役割を果たすものです。

日本は、海辺に並んだ原子力発電所の核燃料・核廃棄物と、高レベル核廃棄物をフランス・イギリスに再処理を依頼した大量のプルトニウム保有により、危険な状況になっています。2021 年末の日本のプルトニウム保有量は 45,800Kg あり、長崎に落ちたプルトニウム原子爆弾（推定 6Kg のプルトニウム量）にすれば約 7000 発になるほどの莫大な量です。近隣諸国と平和共存しなければ、国は滅亡します。そして、そのプルトニウムのうちの多くが、まだイギリス・フランスに預けたままになっています。フランスからのプルトニウム輸送船は、スエズ運河、紅海、アラビア海、インド・太平洋を通り、中国の東側、沖縄を含む南西諸島には自衛隊基地をせっせと作り、大量の武器を買って構えています。原発を動かすことにより、どれほどの税金を費やしているか、原発を動かすことによりどれほどの放射線障害を起こすことになるか！核兵器を作り得る事を優先した愚かな政治を続けた結果です。国民、特にその道の知識人が原発を止めなかった結果です。

“やられたらやり返す”、そんな時代はもう終わりにしましょう。核施設 1 つを攻撃するだけで大惨事となる時代です。改憲は有事を誘導し、核に埋もれた日本を破滅させることになります。私たちは今、非武装中立の国つくりへと歴史を転換すべき重い責任を背負っています。

**選挙で変えましょう。**

先日、鹿児島県霧島市民会館で、講演会『「戦争しない国つくり」～自衛隊を災害救助即応隊に衣替え～ 』（講師：花岡蔚氏）を開きました。選挙のたびにばらばらに投じられる私たち護憲市民の票が無駄にならないように、各護憲政党が 1 つの緩やかな党になってほしい、そのための護憲政党間の接着剤になりたい、という思いで準備した講演会でした。

すでに、オール鹿児島が各地域で共闘の運動をしていますが、私たちは共闘の共通項が第九条②項の「護憲」になるように願っています。そして比例代表選では、無党派護憲市民の声を 1 つに絞って非武装中立を党是とする政党に集中させ

ようと、「戦争しない国つくり応援団」を作ろうとしています。

公正な選挙が行われることも大事です。不在者投票の福祉施設現場で、不正が行われていることを、私は目にしたことがあります。今や要介護者の社会参加が進められている時代です。最も重要な社会参加は「選挙」です。移動手段も 福祉車両や 電動車椅子等の普及が進み、投票しに行くのに支障はありません。閉ざされた施設内での不正な選挙を予防することができます。選挙管理委員の立会いの下で選挙を行うように、各地で働きかけなければなりません。

生涯教育のうち特に社会学は私たち国民が学び続けるべきものです。身近な政治問題を公民館などで学識経験者の方を呼び、話を聞いたうえで討論し合う機会があれば、と思います。あるいは科学的知識も必要な問題については、その道の専門家たちが積極的に社会に向かって意見を発するべきです。それは、幸いにして教育を受けることができた者の社会に対する義務でもあると思うのです。

一人ひとりが正確な情報で判断できるよう、選挙の質を向上させる不断の努力が必要だと思います。

行政府・立法府の国会議員や裁判官をはじめとする公務員は、むろん憲法を守る義務（憲法 99 条）がありますが、主権者である私たちにもまた、第九条②項を政府に守らせる義務が課せられています。なので、第九条違反の国家を正すべく、政権交代により政治を変え得る「選挙」について書かせていただきました。

とても大変な活動をしておられる非暴力平和隊の方々に敬意を表します。紛争地で活動する NGO は常に危険と隣り合わせではありますが、活動するメンバーの方々の安全を願っております。そしてその活動が実りある成果を得るためには、英語ではなく地域の言葉とエスペントで活動される方が、英語圏以外の国々にも浸透し、信頼されるのではないかとチラリと思っております。

（鹿児島県霧島市、医師）

**※追記：**「9 条を輸出する会」は、1991 年に湾岸戦争が終わってすぐ立ち上げました。勝利宣言するブッシュ大統領がアメリカの兵器工場の前で、湾岸戦争で使用した迎撃ミサイル、パトリオットを紹介した時、（武器輸出に対して）“私たちは 9 条を輸出しよう”と決めたのです。国益という荷を背負った政治家たちによる話し合い解決は困難です。それを超える「法」によって紛争を処理する方法が戦争を回避できると思いました。9 条挿入歌「地球星」を作り、エスペント語を含むいろんな言語で歌ってもらっております。9 条②項がその国際法に取り入れられることを期待して。

◇　9 条挿入歌「地球星」HP
https://9artikolo.com/

## NP 2022 年度 年次報告より

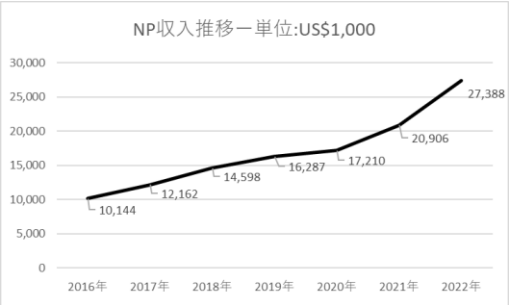
理事　大橋祐治

NP 発足 20 年の 2022 年度年次報告（活動報告・決算）が発表されましたので、この間の歩みと併せて主要事項をご報告します。

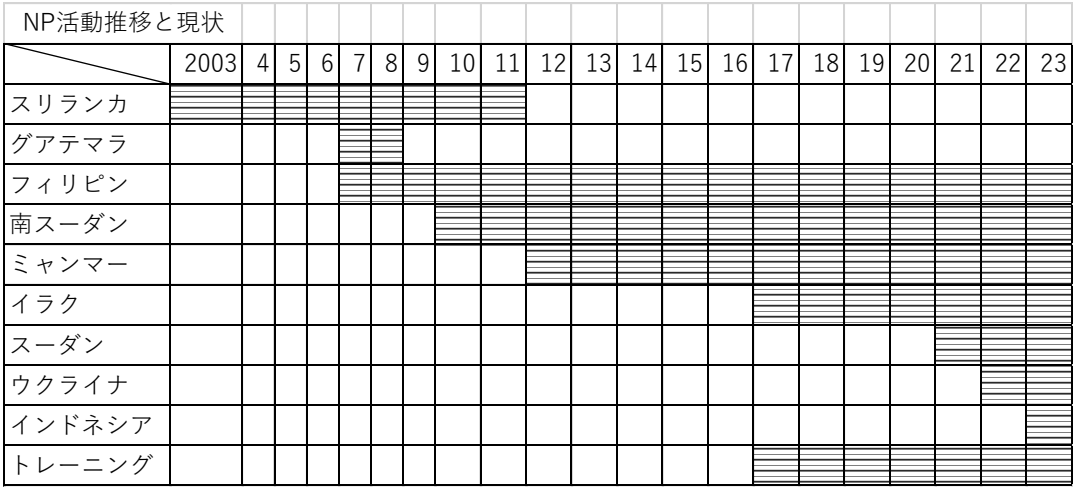
2003 年、スリランカ・プロジェクトを開始以降、F/S（活動可能性調査）した国・地域を除いて 10 の国・地域で活動を行ってきました。2022 年末現在、8 地域で活動しています。（活動プロジェクトの推移は下段に示しています）

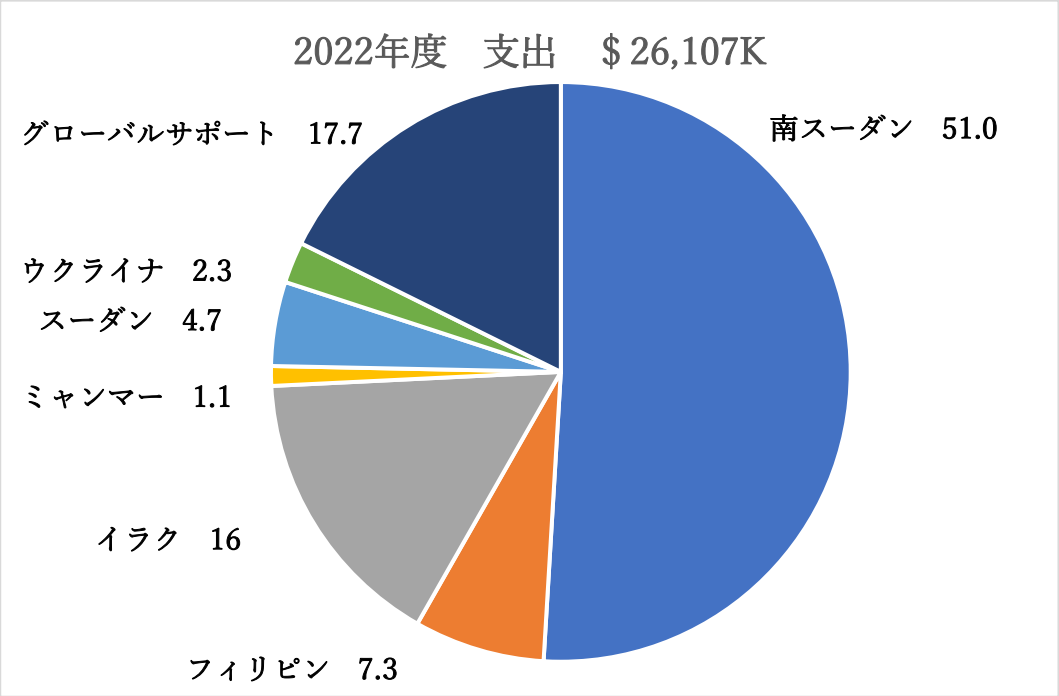
インドネシアはアチェで 2022 年末に活動を開始しました。2005 年の和平合意の実質化の支援が目的です。2020 年からインドネシアの二つの大学や複数の市民団体と調査・協議してきました。

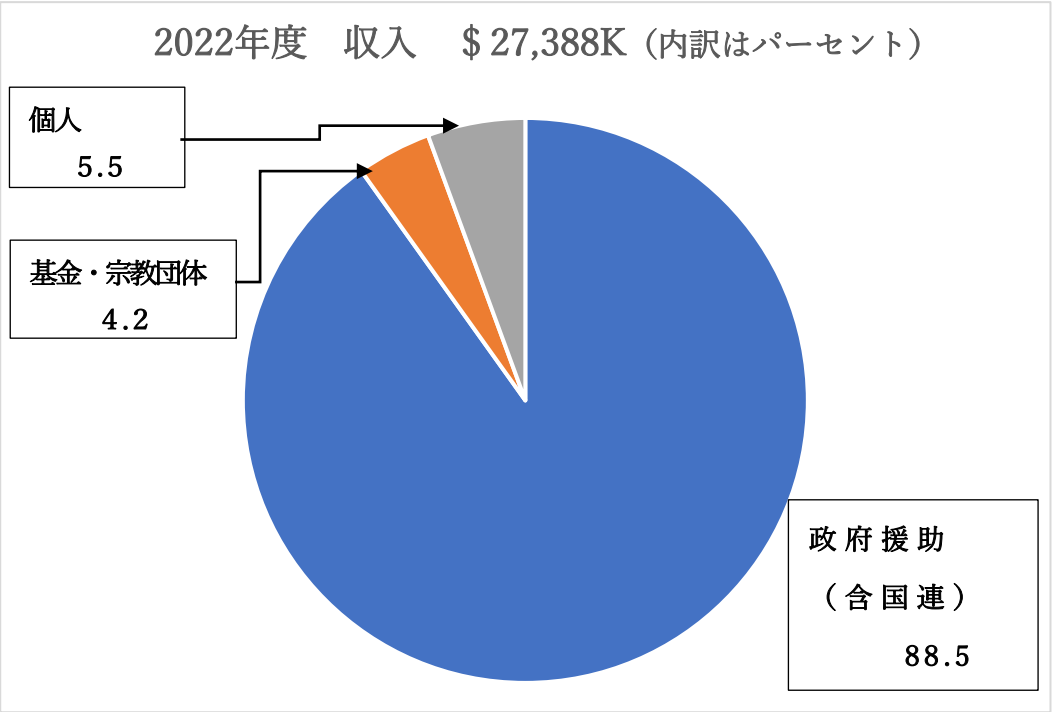
NP の収入は過去数年間で 3 倍近くに増加しています。特に 2022 年度の増加が顕著です。比率的には個人の寄付が増加しており、NP の現地部隊の増強やグローバル・サポートの陣容が強化されています。



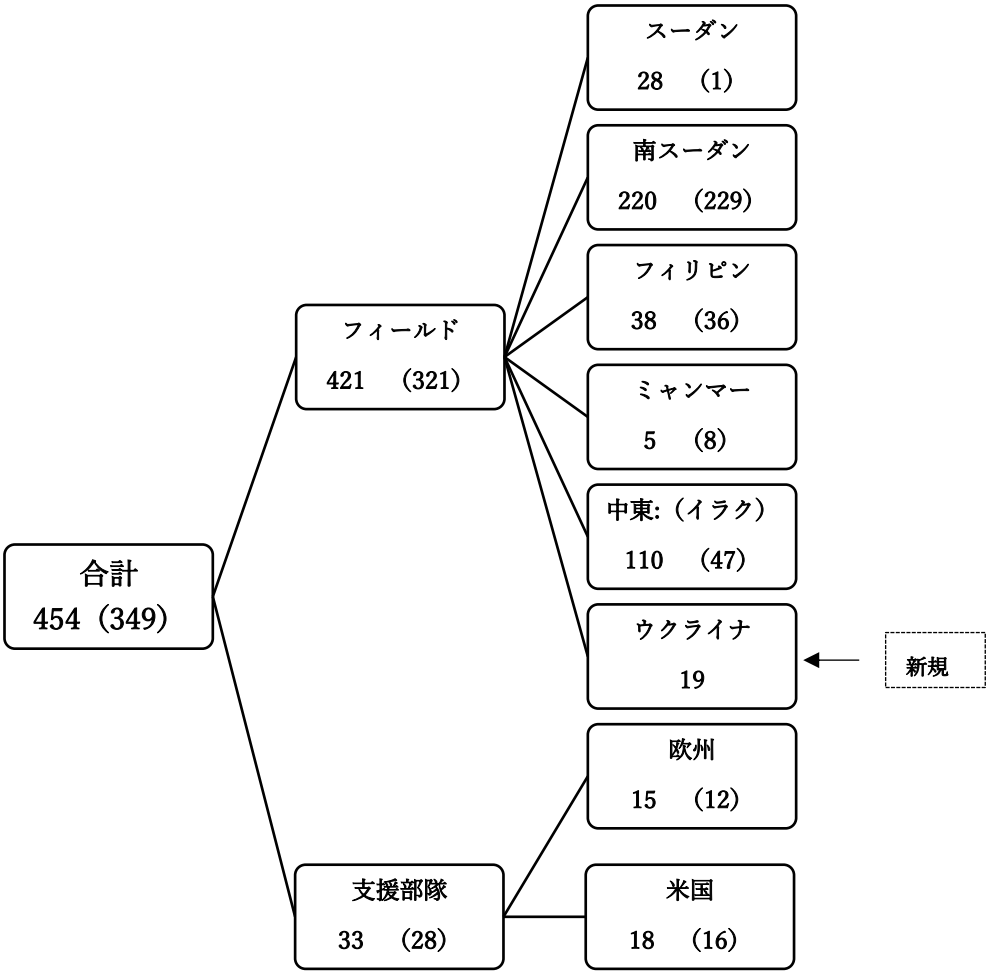

執行責任者の Tiffany Easthom は年次報告の冒頭で支援者への謝意を表明するとともに非暴力と非武装市民平和活動（UCP）が安全と平和への着実な道のりであるとの確信を述べています。




2022年度　支出　＄26,107K
グローバルサポート　17.7
南スーダン　51.0
ウクライナ　2.3
スーダン　4.7
ミャンマー　1.1
イラク　16
フィリピン　7.3


2022年度　収入　＄27,388K（内訳はパーセント）
個人
5.5
基金・宗教団体
4.2
政府援助
（含国連）
88.5

NP　スタッフ　2022 年末　単位:人　（　）内は 2021 年末




**国内外スタッフ比率**

＊international　22%

＊nationals of program countries　78%

（2022 年末）

| | |
|---|---|
| Men | 61% |
| Women | 38% |
| Nonbinary | 1% |

スーダンのダルフールに関する緊急声明　　2023年11月7日

## ダルフール全域で民間人に対する暴力と集団残虐行為の危険が拡大するなか、非暴力平和隊（NP）は国際社会に対し、エル・ファッシャーからの民間人の安全な移動を緊急に求める

ニャラ（南ダルフール）やエルファシャー（北ダルフール）など、ダルフール地域の市民に対する集団残虐行為の脅威がこの 2 週間、急速にエスカレートしている。スーダン国軍（SAF）と（準軍事組織である）即応支援部隊（RSF）の戦闘がこの地域で拡大する中、市民は食料や水もなく、活発な戦闘や現実的な脅威となる武装勢力から安全に離れることもできず、閉じ込められている。民間人の安全な移動手段を確立することが急務であり、国際社会は紛争当事者に（物資だけでなく民間人にとっても）安全な経路を確保するよう働きかける必要がある。

「市民の安全な移動は不可能に近い。民間人の居住区、学校、病院が標的となり、人々は安全な場所にたどり着く方法がない」と NP スーダン派遣団代表の Nic Pyatt は言う。

エルファシャーは、避難民が安全な場所を求めているため、ここ数カ月で市民が急増している。この町に安全を求めた人々の多くは、武装集団に狙われている民族グループの出身であり、民兵が町を包囲しているため、深刻な危険に直面している。

安全な通行や、民間人の保護と安全な移動を求める国際社会の強固な要求がなければ、民間人は暴力や集団残虐行為の重大なリスクに直面する。ここ数カ月で少なくとも 1000 人の民間人の遺体が集団墓地で発見されている。女性や女児は、性的暴力の標的として広範囲にさらされている。

市民からの報告によると、人道的災害が続いている。一晩中、エル・ファッシャーへの主要な水の供給が断たれ、市民は水を奪われた。人々は、食料、燃料、医薬品の深刻な不足に直面している。周辺地域から避難している数千人の市民は、シェルターへのアクセスもなく、砲撃や銃撃が続く中、路上で生活している。エルファシャーの全域で、人々はデング熱、マラリア、腸チフスなど、生命を脅かす病気に苦しんでおり、医療サービスを受けることができない。

**国際的な行動がなければ、こうした状況は悪化の一途をたどるだろう。行動を起こす好機は限られており、紛争を食い止めるための努力は、献身的、協調的、かつ緊急に行われなければならない。ジェッダでの協議が続くなか、国際的な関係者は、現在進行中の暴力を阻止し、安全な移動を提供し、市民を保護するために緊急に介入しなければならない。**

Nonviolent Peaceforce

非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊・日本のウェブサイトの入会申込ページ**をご利用くださいますようお願いいたします。

**◎正会員（議決権あり）**
- 一般個人：10,000円
- 学生個人：3000円

＊ 団体は正会員にはなれません。

**◎賛助会員（議決権なし）**
- 一般個人：5000円（1口）
- 学生個人：2000円（1口）
- 団体　　：10,000円（1口）

■ **郵便振替**：00110-0-462182　加入者名：**NPJ**
＊通信欄に会員の種類を（賛助会員の場合は口数も）ご明記ください。
■ **銀行振込：三井住友銀行　白山支店　普通　6622651**　口座名義：**NPJ代表　大畑豊**
＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話・ファックス・メールのいずれかを通じて入会希望の旨、**NPJ**事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。
■**ウェブサイトからのお申込み**：http://np-japan.org/4_todo/todo.htm#member

夏季カンパありがとうございます。25 名の方から合計 162,000 円のカンパを頂きました。厳しい状況の中、ご支援に感謝いたします。（敬称略）

飯高京子、柳康雄、武藤陽一、高柳博一、大島みどり、野島大輔、山本賢昌、本東宏、日置祥隆、君島東彦、日本山妙法寺、馬渡雪子、矢島十三子、大石裕子、宮田光雄、福崎裕夫、川辺希和子、熊谷喜代春、青木そのみ、青木護、尾崎秀子、徳留由美、安藤博、大畑豊、大橋祐治

前号でも NP 常任理事 Tiffany からスーダンに関する緊急メールを掲載しましたが、NP は再度緊急声明を出しました◆ウクライナ、パレスチナ等のメディアの注目する紛争の影に報道されない数々の紛争が進行し、民間人の保護が求められています◆日本では「台湾有事」を煽り、沖縄を含む南西諸島での自衛隊配備の強化、日米合同演習の大型化が進んでいます◆11 月 23 日には那覇市で、沖縄を再び戦場にさせない県民大集会が開催され、1 万人以上が集まりました◆沖縄島、与那国島、石垣島、宮古島、奄美などでは政府の戦争まっしぐらの姿勢に対し、「戦場」とされることへの危機感、反発が広がっています。「本土」にはどれくらい、その危機感が伝わっているでしょうか◆87 号は 9 月発行予定でしたが、コロナにかかってしまい、大きくずれてしまいました。お詫び致します（O.Y）